島根医学　第40巻　第1号　32～38頁（2020）

がん患者メディカルフィットネスにおける リスク評価と運動負荷試験の必要性

徳田佳生[1)]　福永典子[1)]
井原伸弥[2)]

キーワード：がんサバイバー，メディカルフィットネス，リスク評価，運動負荷試験

要　旨

がんサバイバーに対するフィットネスの有用性は既に報告されているが，当院がんセンター・メディカルフィットネスにおけるリスク評価と運動負荷試験の結果を検討したので報告する。【方法】2017年４月～2019年３月に受診した連続36例（男性13例，女性23例，平均年齢58.3歳）を対象とした。アメリカスポーツ医学会のリスク層別化に従って高・中・低リスクの３段階に評価し，運動負荷試験は同意が得られた場合に実施した。【結果】高リスク16例，中リスク14例，低リスク６例となり，36例中25例に運動負荷試験を行い，８例（高リスク５例，中リスク３例）でST低下，不整脈などの異常所見がみられた。平均年齢は異常ありが67.9歳で異常なしの58.2歳より有意に高かった。８例中５例を循環器内科へ紹介し，精査の結果１例で投薬が開始となった。【結論】がん患者のフィットネス実施に当たってリスク評価と運動負荷試験はリスク管理上重要と思われる。

はじめに

がんサバイバーに対する運動療法の有用性は既に報告されており，アメリカでの先行的臨床研究で乳がん，前立腺がん，大腸がんなどをはじめとした多くの癌腫において，体力，倦怠感，抑うつ・不安，生活の質，化学療法中の有害事象，さらには生命予後に関する有用性が示されている[1-7)]。また日本においてもがんのリハビリテーションガイドラインにおいて運動療法の実施が推奨されている[8)]。しかし日本ではまだがんサバイバーに対する運動療法は普及しているとは言えない。

一方がん患者に対して安全に運動療法を実施するためにはメディカルチェックの実施が重要と思われる。American College of Sports Medicine（ACSM）の勧告もリスク評価した上で運動負荷試験の実施を推奨されている[9)]。

Yoshio TOKUDA et al.
1）松江市立病院リハビリテーション科
2）同　リハビリテーション部
連絡先：〒690-8509 島根県松江市乃白町32-1
松江市立病院リハビリテーション科